



営農NEWS



促成キュウリの菌核病や灰色かび病、退緑黄化病 の発生に十分注意しましょう

促成キュウリ栽培では、施設の密閉による湿度の上昇に伴って、褐斑病、べと病などの病害が発生しやすくなりますので、定期的な薬剤防除を欠かすことができません（営農NEWS 第2924号：令和4年1月18日発行を参照）。更に、これからは、果実に被害を生じる菌核病や灰色かび病、ウイルスによる退緑黄化病などが発生しやすくなります。

病害虫発生予報2月号（県病害虫防除所）によると、1月下旬現在、キュウリ退緑黄化病の発生は、平年よりやや多い状況です。キュウリの連作圃場では、年々、これら病害の伝染源や媒介虫の密度が高まっていると考えられ、菌核病が土中に残った菌核、退緑黄化病は媒介虫タバココナジラミが伝染源ですので、前作で発病の多かった圃場では十分な注意が必要となります。

菌核病や灰色かび病は、やや低温で多湿な条件が続くと急速に多発生し、薬剤散布の防除効果が十分にあがらなくなる恐れがあります。このため、晴れた日の予防散布に努め、病害の早期発見、早期防除を徹底することが特に重要です。

【防除対策のポイント】

- 1) 菌核病や灰色かび病の被害果を見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分します。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となって、孢子が飛散する恐れがありますので）厳禁です。
- 2) 施設内の多湿条件が続くと、急速に菌核病や灰色かび病が多発生します。昼近くになっても作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により、施設内の湿度をできるだけ低く保ってください。
- 3) 菌核病や灰色かび病の対策として、開花が終わっても花落ちが悪い場合には、出来るだけ枯花を取り除きます。
- 4) 薬剤散布は晴れた日の、夕方までには作物表面の薬液が乾くような時間帯に行ってください。
- 5) 湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」などを活用します。
- 6) 薬剤耐性菌や抵抗性の発生を抑制するため、同一分類（コード）の連続散布は避けてローテーション散布します。

表1 キュウリ菌核病、灰色かび病の主な防除薬剤

（令和4年2月10日現在）

薬剤名	対象病害		希釈倍率または使用方法	使用時期 / 使用回数	分類
	菌核病	灰色かび病			
スミレックス水和剤	○	○	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 6回以内	2
スミレックスくん煙顆粒			くん煙室容積100㎡当たり6g		
ゲッター水和剤	○	○	1,500倍	収穫前日まで / 5回以内	1と10
フルピカフロアブル		○	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 4回以内	9
フルピカくん煙剤			くん煙室容積500㎡当たり50g		
ファンタジスタ顆粒水和剤	○	○	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	11
パレード20フロアブル	○	○	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7
セイビアーフロアブル20	○	○	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	12
ジャストミート顆粒水和剤	○		2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	12と17
		○	2,000~3,000倍		
ベルコートフロアブル	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 7回以内	M7
ダコニール1000		○	1,000倍	収穫前日まで / 8回以内	M5

注）表1および表2の分類欄には、FRACまたはIRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 キュウリ コナジラミ類の主な防除薬剤

（令和4年2月10日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象害虫	分類
ディアナSC	2,500倍	収穫前日まで / 2回以内	アザミウマ類、ハモグリバエ類など	5
トランスファームフロアブル	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	アブラムシ類	4C
ベストガード水溶剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ	4A
コロマイト乳剤	1,500倍	収穫前日まで / 2回以内	ハダニ類など	6
サンマイトフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 2回以内	アブラムシ類、ハダニ類など	21A
モベントフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類	23
グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	アザミウマ類、ハダニ類など	30
ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	アザミウマ類、アブラムシ類など	28

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040